

# 平成29年台湾青森りんご友の会情報交換会概要

- 1 日 時 平成29年12月14日（木）午後3時～午後5時
- 2 場 所 王朝大酒家（台北市松山区敦化北路100号）
- 3 出席者 台湾側：9社14名、日本側：27名、合計41名  
（出席者名簿：別紙）
- 4 内容

## （1）あいさつ

### ①一般社団法人青森県りんご対策協議会 会長 加川雅人

台湾への青森りんご輸出は一昨年、昨年産と連続で2万トンを超えることができました。これも「台湾青森りんご友の会」の皆様と密接な連携や課題共有の成果であると感じております。

しかし、昨年産の販売を振り返りますと12月以降は価格の問題や豊作であったアメリカ産に贈答需要を奪われるなどから、出荷にブレーキがかかってしまいました。

このため、本会では本年産の販売に弾みをつけるため、輸出早期の10月から大々的にプロモーションを展開し、需要拡大をはかっているところです。

本年産の台湾への輸出は11月末まで、一昨年、昨年を上回るペースで進みすでに1万トン近くが出荷されております。

この堅調な販売を終盤まで継続していくために、本日皆様からの忌憚りの無いご意見、ご要望を賜り、取り組むべき課題を共有して参りたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。

### ②馥農企業股份有限公司 許

青森りんごの輸入に関する情報交換会の開催に感謝しています。弊社の輸入量は年々増加しています。私が担当しているスーパーマーケット部門での取り扱いが増加しているためです。台湾での販売促進活動については量販店での活動にもっと力を入れていただきたい。量販店で販売するりんごはほとんど小玉のりんごになるので、小玉の価格を下げやすい価格で提供してほしい。

## （2）2017年産りんごの生産状況と台湾への輸出について

青森りんごの生産状況については、青森県りんご果樹課舘田課長から、台湾への輸出拡大に向けた取り組みについては、青森県国際経済課沖沢課長から、台湾における青森りんごの消費宣伝については、りんご対策協議会の高澤事務局長より、それぞれ資料に沿って説明がなされた。（別紙資料1から3参照）

## （3）販売促進グッズの贈呈

販促グッズとして、青森県りんご対策協議会が作成した鮮度保持袋、クリアファイルが、会議の席上台湾側代表の台湾新果国際有限公司陳雅頊さんに青森県りんご対策協議会加川会長と相馬、平沼の両ミスりんごから贈呈された。鮮度保持袋、クリアファイルともに台湾生まれの渡辺直美がイメージキャラクターとして採用されている。なお、他の参加者には会議終了後全員にグッズが提供された。

(4) 情報交換 (座長：青森県りんご輸出協会北山理事長)

【情勢報告】

<馥農企業股份有限公司 許>

今年、台湾の国内産果物の値段は非常に安い。この影響もあって輸入果実の販売も思わしくない。台湾の市場では日本産りんごの単価が高いため、消費者はこれに代わる選択肢として韓国産、アメリカ産を選ぶ傾向がある。

<三貴水果行 潘 志謙>

市場側としては、単価が上がると仕入れが小玉を選ぶ傾向になる。きれいな大玉は台湾では贈答用に使われるので、贈答用の需要期ではない現在の需要は少ない。



【テーマについての意見交換】

以下のテーマについて、意見交換が行われた。

テーマ1 青森りんごの消費拡大方策

テーマ2 有効な消費宣伝

<馥農企業股份有限公司 李 婉瑜>

青森りんごを一般の若い人にPRしていくためには、もっと多くのTVコマーシャルやドラマなどに露出させることが必要と思う。若い人の買い物はインターネットでの購入が増えている。ネット販売に力を入れることで消費拡大につながると思います。

→<りんご対策協議会 高澤事務局長>

今年初めて、タレントを使ったテレビCMや販促資材を作った。また、今年はフェイスブックも立ち上げた。これまでは、安全・安心なイメージを前面に出してコマーシャルしてきたが、今年か

らはタレントを使って健康や美容といったストレートな表現でPRすることにしています。

<台湾新果実国際有限公司 陳 雅頊>

私は事務職なので数字しか見ないが、青森りんごは他の国に比べ単価が高いと感じています。民視にコマーシャルを出しているようですが私個人の感覚として、若い人は民視をあまり見ないと思う。民視は主婦層が見ていると思う、若い人はテレビをあまり見ないのでSNSでのPRが重要になると思う。

<和新生鮮有限公司 黄 英雁>

スーパーマーケットでのプロモーションで感じたことは、今年11月末と12月初めに台湾のアルティマートで青森りんごの宣伝販売を行ったとき、アメリカ産の小玉のりんごと並べると単価の面で大きな差が生ずる。青森県産りんごに何かの付加価値やおまけを付加することで消費が拡大できるのではと思っています。韓国産は青森りんごと競合しない。品質面で青森りんごが選ばれる。やはり価格面で極端に違うアメリカ産に対抗できる何かをほしい。

<喬承企業有限公司 潘 昀謙>

黄さんと同じく感じている。青森りんごは高品質と認識されている。品質の適正な管理が求められる。一般の人にはドラマの中で取り上げると宣伝効果が高い。



<日盈國際有限公司 黄 文博>

2015年民視でドラマが放送されたとき台中、台南から毎日のようにオファーがあった。そのときが、弊社での売り上げが最も伸びました。フェイスブックでのPRは有効と思います。フェイスブックを使って、生産している青森のりんご園から台湾の消費者へ届くまでを一般の人が見られるようにすれば消費拡大につながる。また、消費者にりんごの食べ方を紹介することで関心が高まると思う。台湾の消費者は8割が皮は食べない方が良く思っている。

→<りんご対策協議会 加川会長>

十分検討して、今後対応していきたい。

<新店得利行 鄒 志強>

弊社は青果店に販売している。アイスボックスは廃棄処理に手間がかかる。青森産りんごは高いので、品質や効能を消費者にもっとアピールしてほしい。青森りんごのどこが素晴らしいのか他国産とどこが違うのかを消費者に訴えかけてほしい。

<瑞果水果行 陳 瑞淇>

青森りんごの良さに焦点を絞って消費者にPRした方がよい。りんごの消費は年を取った世代が中心になるのでターゲットを絞ったほうがよい。

<全興水果行 陳 乾隆>

今年は、円高でもないのに輸入りんごの価格が下がらないのはなぜですか。消費者が手に取れる値段で販売しないと消費者は日本産りんごの良さがわからない。消費者が気軽に手にできる価格帯のりんごを提供してほしい。

<りんご生産者 矢田康祐>

市内の小売店を回ってみて青森りんごに対する評価の高さを感じている。品質の良いりんごを生産して台湾の皆さんにお届けすることが、私たちの務めだと感じています。台湾の皆さんも青森を訪れて、りんごがどのように作られているのか、現場を直接、見ていただきたいと強く思っています。

<りんご生産者 葛西 伸>

私は、地元の津軽りんご市場にりんごを出荷している。そのりんごを業者さんが仕入れ台湾に輸出されている。流通の過程で、市場の手数料や取り扱い業者の利益、輸出の経費、小売りの利益が必要なので値段が高くなってしまふ。流通の過程で経費は嵩むがそこに携わる人たちにより品質が維持されていると考えています。必要なコストについて、りんごに携わる人が正しく理解し適正な価格で消費者に届けられることを望んでいます。

<津軽りんご市場 平岡次長>

皆様にお配りしているりんごは、一年間手間暇をかけて一生懸命作っています。りんご作りは自然を相手にしています。今年は三度台風が上陸した。落果は少なかったが樹上で傷ついたりりんごが多かった。傷のないりんごを選ぶのは大変なことなのです。価格が高いと言う意見がありましたが、このような状況を考慮してほしい。

<全農青森 笹森部長>

消費者が青森りんごに求めているのは、価格なのか価値なのかを見極めて、需要と供給のバランスを取りながら今後も取引をお願いします。

<りんご対策協議会 森山常務理事>

私は、市場や農家からりんごを仕入れて販売する業者です。国内外の需要に合わせて良いりんごを毎年買い集めている。消費者に喜ばれる美味しいりんごを低価格で提供できるよう努力しています。本日も台湾の皆様が望んでいるりんごを供給するためにこの会に参加しています。今後もお付き合いをよろしくをお願いします。



<座長：北山敏光>

色々なご意見をいただきありがとうございます。予定した時間となりましたので、意見交換を閉じさせていただきます。皆さんご苦勞様でした。

以上（座長：青森県りんご対策協議会・青森県りんご輸出協会常務理事 北山敏光） 総合司会：青森県りんご輸出協会事務局 鈴木 隆）

## 資料 1

### 2017年産青森りんごの生産状況について

#### 1 開花・結実状況

4月上旬の気温が高かったことから、発芽日は平年並から2日早まりました。その後、気温はほぼ平年並に推移し、5月上旬には再び高温となったことから、開花日は各品種とも2～3日早まりました。

#### りんごの生育ステージ

#### りんご研究所（黒石市）

品種	年次	発芽日	開花日	満開日	落花日
ふじ	本年	4月7日	5月6日	5月11日	5月15日
	平年	4月9日	5月8日	5月13日	5月17日
	平年差	早2日	早2日	早2日	早2日
ジョナゴールド	本年	4月6日	5月5日	5月10日	5月15日
	平年	4月6日	5月7日	5月13日	5月17日
	平年差	0日	早2日	早3日	早2日
王林	本年	4月6日	5月4日	5月9日	5月13日
	平年	4月8日	5月6日	5月12日	5月16日
	平年差	早2日	早2日	早3日	早3日

※平年：1996年から2015年までの20か年平均

#### 2 果実肥大状況

りんご研究所の果実肥大は、平年並からやや上回っているものの、7月の降雨不足や8月の低温の影響により、一般の生産園地では、園地によりバラツキがあり、山手を中心に例年に比べて小玉傾向となっています。

#### りんご果実肥大（横径）

#### りんご研究所（黒石市）

品種	調査日	本年 (cm)	平年 (cm)	前年 (cm)	平年比 (%)	前年比 (%)
ふじ	11月1日	9.1	8.9	8.7	102	105
ジョナゴールド	10月21日	9.5	9.4	9.3	101	102

※平年：1996年から2015年までの20か年平均

### 3 予想収穫量

8月1日の調査では、平年並からやや上回る着果量を確保しており、予想収穫量は前年収穫量並の45万3,700トンを見込んでいます。

#### 2017年産りんごの予想収穫量（2017年8月1日現在）

品種	結果樹面積 (ha)	予想収穫量 (t)	前年収穫量 (t)	前年収穫量 との差(t)	前年対比 (%)
ふじ	9,550	229,200	224,600	+4,600	102
ジョナゴールド	2,000	42,000	44,200	-2,200	95
王林	2,160	47,500	44,700	+2,800	106
つがる	2,270	40,900	43,100	-2,200	95
その他	3,920	94,100	91,200	+2,900	103
計	19,900	453,700	447,800	+5,900	101

※1 結果樹面積は、りんご果樹課推定値

※2 予想収穫量は、2017年7月28日～8月2日に調査した着果数、肥大状況などから推計

※3 前年収穫量は、国公表の実績値

※4 前年対比は、前年収穫量に対する比率

### 4 病害虫の発生状況等

病害虫の発生は、全般に少なく経過しました。

県では、台湾向け登録選果こん包施設に対して、モモシンクイガ被害果実の徹底排除に向けた研修会や巡回指導を実施したほか、台湾の農薬残留基準値の設定状況について、県ホームページへ掲載し、広く周知に努めています。

### 5 果実品質

果実品質は、9月以降、概ね晴天に恵まれて気温が平年より低かったことから、着色が良く、糖度も高く、全体に良好な仕上がりとなっています。

## 資料 2

### りんご輸出拡大に向けた青森県の取組について

#### 1 輸出の現状と目標

青森県では、青森りんごの輸出目標数量4万トン掲げて、台湾をはじめとする東アジアや経済成長著しい東南アジアを主なターゲットに輸出拡大に取り組んでいます。

その中で最も重要な輸出先に位置づけているのが台湾であり、全輸出量の約7割が台湾向けとなっています。

#### (1) りんご輸出実績

(単位：トン、%)

年産	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
全体数量	25,497	22,256	23,867	17,940	9,867	14,898	19,889	30,115	36,304	27,558
台湾向け 数量	23,878 (93.6)	20,498 (92.1)	21,656 (90.7)	15,912 (88.7)	8,459 (85.7)	13,214 (88.7)	16,561 (83.3)	23,417 (77.8)	27,301 (75.2)	20,215 (73.4)

注：( ) は輸出量全体に占める割合

台湾向けについては、2009年産まで連続して2万トンを超えていましたが、2010年産以降は、世界的な景気後退や記録的な円高等により減少し、特に、2011年産では不作に伴う産地価格の高騰もあって激減しました。

それ以降、台湾の販売関係者の皆様の御協力により徐々に回復し、2014年産以降は、3年連続で2万トン以上の輸出量となっています。

#### (2) 今年産りんごの輸出希望数量

2017年産輸出希望数量	台湾 3万トン以上
--------------	-----------

2017年産のりんごは、前年収穫量並みの45万3,700トンの収穫量が見込まれており、十分な生産量を確保できる見通しです。

青森県では、今後の生産管理に万全を期して、高品質・良食味なりんごを皆様に供給したいと考えています。

本年産の輸出量が台湾で3万トン以上になるよう御協力をお願いします。

## 2 輸出対策

台湾の皆様へ安全・安心、高品質で美味しい青森りんごを提供するため、青森県では関係者一同力を合わせて次の対策に取り組んでいます。

### (1) 生産・流通対策

- ①農薬の適正使用により、病害虫の防除を徹底します。
- ②黄色品種については「カラーチャート」の利用による適期収穫を徹底します。
- ③炭酸ガス障害（褐変）防止対策に取り組めます。

### (2) 輸出拡大対策

- ①りんご生産者等の輸出を目指したりんご生産への意識を高め、高品質で良食味な生産により青森りんごの競争力を強化します。
- ②台湾及び香港のりんご販売関係者の産地招請や産地情報の提供により、双方の信頼関係を強化します。

実施時期	内 容
2017年10月	<b>○台湾・香港の販売関係者の産地招請</b> 県りんご輸出協会が設立した「台湾青森りんご友の会」の会員である台湾の輸入業者等を招請し、産地視察や関係者・生産者との意見交換会を実施
2017年12月	<b>○台湾での販売状況調査・意見交換会</b> 生産者が台湾における店頭販売や市場調査を通じて販売状況を把握するとともに、台湾の販売関係者との意見交換会を実施 <b>○知事トップセールス</b> 青森りんごキャンペーンにおける試食宣伝販売等でのPR
2018年2月	<b>○輸出対策の検討</b> 台湾・香港における販売状況調査や意見交換会の結果を踏まえ、今後の輸出対策を検討



## 資料 3

### 2017年度青森りんご輸出宣伝事業について

#### 台湾における青森りんご宣伝事業

##### (1) 早期輸出強化プロモーションの実施

###### ① 販促イベントの開催

10月12日(木)～14日(土)

WELLCOME 主要店舗

10月13日(金)～15日(日)

JASONS 美麗華店、高雄漢神巨蛋店

販売スタッフによる試食販売を実施するほかミスりんごによる PR やクイズ大会などのステージイベントを行う。

###### ② 試食宣伝会の開催

10月15日(日)～31日(火)

- ・販売スタッフによる試食販売実施
- ・試食マネキンの統一コスチューム
- ・売場への青森りんご電子POP設置



###### ③ WELLCOME りんごフェア共同記者発表

10月12日(木)



##### (2) 台湾マスメディア産地招待事業

台湾マスメディア(テレビ、新聞、ブロガー等)の産地取材を実施し、台湾内の記事やニュースとして産地の情報を発信する。

日程: 9月25日(月)～28日(木)

参加予定: 新聞(自由時報、中国時報)、雑誌(鏡週刊)

テレビ局(民視FTV)、人気ブロガーほか



##### (3) 小売店でのPRイベント及び試食宣伝

###### ① 試食PR、キャラバンイベント

実施時期: 2017年12月～2018年1月

- ・Wellcome 12月～1月
- ・JASONS 12月～1月
- ・太平洋SOGO忠孝店 1月

- ・台湾楓康超市 調整中
- ・大潤發 RTマート 12月

###### ② ステージイベント

- ・高島屋 JASONS 大葉店 12月16日(土)
- ・漢神巨蛋 JASONS(高雄市) 12月17日(日)
- ・大潤發 RTマート 12月(調整中)
- ・台湾楓康超市 12月、1月(調整中)



#### (4) 企業向け青森りんご試食会（1月）

台湾大手企業とタイアップしたキャンペーンや社員を対象とした試食宣伝会、りんご配布、物販ブースを設置しPRをおこなう。



#### (5) 台湾消費者向けホームページ開設、Facebook ページでの情報発信

台湾で実施する試食宣伝会やイベント情報、また青森りんご産地情報をリアルタイムに発信するため、台湾語のホームページや SNS を新規に開設し情報発信を行う。



#### (6) 販売促進資材の作製、配布

リーフレット、鮮度保持袋のほか日本の人気タレントを起用したポスターなどによるイメージ情報を発信する。



鮮度保持袋

トキリーフレット

タレント起用ポスター

#### (7) 流通関係者との会議、行政関係機関等訪問など



台湾友の会との意見交換会



行政関係機関訪問



幼稚園、福祉施設訪問

#### (8) テレビ宣伝

テレビCM（トキ編：10月、こだわり編：12月～1月）

ケーブルテレビCM（こだわり編：12月～1月）

タイアップ情報番組



トキテレビ CM



こだわり編 CM



人気タレント起用 CM

(9) 雑誌への記事、広告掲載

新聞：自由時報、中国時報  
 雑誌：「鏡週刊」「康健」「媽媽寶寶」



WEB ニュース



新聞広告



雜誌、WEB 映像ニュース (鏡週刊)

## 29 年 12 月台湾青森りんご友の会情報交換会出席者名簿

台湾側

公 司 名	参加者名	情報交換会出席	懇親会出席
馥農企業股份有限公司	許	○	○
馥農企業股份有限公司	李 婉諭	○	○
台灣新果國際有限公司	莊 啓進	○	×
台灣新果國際有限公司	羅 瑞軒	○	×
至誠鮮果貿易有限公司	吳 宗鄴	○	○
日盈國際有限公司	黃 文博	○	○
和新生鮮有限公司	黃 英雁	○	○
喬承企業有限公司	潘 昀謙	○	○
新店得利水果行	鄒 志強	○	○
新店得利水果行	鄒 鎧陽	○	○
三貴水果行	潘 志謙	○	○
三貴水果行	洪 宏文	○	○
瑞果水果行	陳 瑞淇	○	○
瑞果水果行	沈 靜怙	○	○
全興水果行	陳 乾隆	○	○
全興水果行	陳 薇雅	○	○
合 計		16名	14名

日本側

所 属	職 名	氏 名	懇親会出席
青森県農林水産部	部長	油川 潤一	○懇親会から
青森県国際戦略局国際経済課	課長	沖沢 進	○
青森県国際戦略局国際経済課	総括主幹	佐藤 新吾	○
青森県国際戦略局国際経済課	主幹	本田 斉与	○
青森県農林水産部りんご果樹課	課長	舘田 朋彦	○
青森県農林水産部りんご果樹課	総括主幹	藤森 洋貴	
青森県農林水産部りんご果樹課	主幹	間山 三起夫	
青森市	りんご生産者	矢田 康祐	
青森市	りんご生産者	出町 晋士	
弘前市	りんご生産者	鈴木 克昌	
弘前市	りんご生産者	戸沢 勇人	
黒石市	りんご生産者	木村 翼	
五所川原市	りんご生産者	阿部 秀平	
五所川原市	りんご生産者	阿部 順紀	
五所川原市	りんご生産者	中川 史也	
つがる市	りんご生産者	七戸 庸介	
板柳町	りんご生産者	葛西 伸	
青森県りんご対策協議会	会長	加川 雅人	○
青森県りんご対策協議会	常務理事	森山 博幸	○
全国農業協同組合連合会	部長	笹森 俊充	○
(株)津軽りんご市場	次長	平岡 浩	○
青森県りんご対策協議会	事務局長	高澤 至	○
青森県りんご対策協議会	事務局	野宮 崇史	○
青森県りんご対策協議会	ミスりんご	相馬 澄佳	○
青森県りんご対策協議会	ミスりんご	平沼 日菜子	○
青森県りんご輸出協会	理事長	北山 敏光	○
青森県りんご輸出協会	会員	太田 一民	○
青森県りんご輸出協会	事務局長	鈴木 隆	○
合 計		28名	16名

通訳 運盈商事社長 鈴木 明達

出席者数 情報交換会 44名 (通訳含む、油川部長除く)  
懇親会 31名 (通訳含む)